

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群③

しんばる・ぬやまこふんぐん 新原・奴山古墳群と

所在地/
宗像市・福津市
指定/
世界遺産・史跡

むなかたたいしゃへつみや 宗像大社辺津宮

新原・奴山古墳群を取り巻く^{でんえんちたい}田園地帯はかつて海でした。古代、人々はこの海を越え、東アジアの国々へと向かいました。航海は常に命の危険があることから、その目印となる島を「神宿る島」として特別な存在と考え、この島でおまつりをするようになったのです。沖ノ島へと続く海を眺める台地の上には、1600年前から1500年前ごろにかけて築かれた41基のお墓が残されています。海とともに暮らし、沖ノ島で祭祀を行った古代の人々がこの地に存在したことを私たちに教えてくれます。

辺津宮の周辺も、かつては海が広がっていました。この海を見渡す丘で、およそ1250年前、滑石の人形、馬形、舟形や小さな穴が空けられた土器などを神様に捧げる沖ノ島とそっくりなおまつりが行われるようになりました。日本で最も古い歴史書である『古事記』『日本書紀』には古代豪族宗像氏が「沖津宮、中津宮、辺津宮」の三か所で宗像三女神をおまつりしていたと書かれていますが、宗像大社三つの神社には実際にそのおまつりのあとが残されています。宗像三女神へのおまつりは、古代から今日まで絶え間なく続いているのです。



新原・奴山古墳群



辺津宮

【もっとくわしく調べたい】

○カメラアステージ歴史資料館 福津市津屋崎 1-7-2 Tel 0940-72-1207

【宗像大社辺津宮に行ってみよう】

○JR東郷駅から西鉄バスで10分、「宗像大社前」下車すぐ。

【新原・奴山古墳群に行ってみよう】

○JR福間駅から西鉄バスで25分「奴山口」下車徒歩15分。